

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.61



子どもの心が奪われないために

NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原嘉一（しのはら・かいち）

と、見ず知らずの相手には返信しない習慣を持たせることが必要だ。一度つながった相手とは縁が切れない仕組みもあるのだから、データの共有とはそういう意味でもリスクが高い。アプリ提供側としては、無料で提供している以上、顧客の動向を読み取るためにも、設定は変えてはしきらないだろうから、ユーザー側でこまめに対応するしか手がないのだ。

女子児童に人気の無料通話アプリ

このところ、無料通話アプリが女子児童に密かなブームがきている。大手のLINEではなく、LINEの無料通話部分の機能だけに特化したアプリが存在する。WiFiさえあれば会員登録も不要で通話ができる。親の解約スマホでWiFiに接続してアプリを押せば誰かと通話ができるのだ。ただし『誰か?』なので、相手はわからない。大人は知らない人と電話をすることに抵抗があるだろうが、幼い頃からソーシャルゲームやLINEでネット上の会話を経験してきた世代には抵抗がさほどない。話を聞いてくれない親より、見ず知らずの相手の方が悩みを話しやすいという。

大人は無料通話アプリの存在を知らないが、子どもたちは「あなたへのお勧め」として広告が届くため、存在を知ってしまうのだ。男の子にはゲームの広告が多いが、女の子はSNS系や無料通話アプリが多く表示される。ただし、多くのアプリは「17+」と年齢表記されており、子どもたちがトラブルを起こしてもアプリ側の年齢基準をクリアしていなければクレームも通らないだろう。

親が子どもを守るためには、スマホ経由ではなく、直接関わらなければ、見ず知らずの相手に子どもの心は奪われてしまうのだ。

子どもが見ず知らずの相手とネットで知り合っ
て出会ってしまう事案が後を絶たない。テレビで
放送される以上に頻繁に起きているのだが、出会
っただけなら気づかない保護者も多い。スマホの
普及により影響が出ていると報道されると「スマ
ホを持たせるな」や、フィルタリングの機能強化
などが番組で取り上げられる。しかし、その部分
だけの問題ではない。親が子どもの変化に気づか
ず、スマホばかりに気をとられてはいないか。あく
まで寂しさや好奇心で知らない人と話してしま
うのだから、日頃から子どもとの関わり方をアナ
ログ的に変えなければいけない。

機能としての問題点

大手キャリアの携帯ショップで購入したスマホ
は、購入時にはSNS系のアプリはほとんど入っ
ていない。キッズスマホなら、まず問題は起きにく
い。購入後に自らダウンロードするSNS機能が
含まれているアプリが問題なのだ。どのアプリが
どのように他者につながりコメントや情報を共有
する仕組みかを確認し、「ダウンロードしてもいい

よ」と子どもと日頃から話せる環境が大事だ。た
だし、ダウンロードする際は必ず親が立ち会って
もらいたい。ゲームアプリだからと安易にダウンロ
ードすると、対戦相手と直接会話できるものも
多く存在する。相手を刺激する口調が大きなト
ラブルの元になっているのだから、ゲームアプリで
あっても、ネット相手との関わり方を親子で話し
合っておいてほしい。

注意しなければならないのが、購入時にSNS
機能のあるアプリを販売店等がサービスで事前に
ダウンロードしてくれている場合がある。格安ス
マホは事前に多くのアプリが入っている場合があ
り、必要のないアプリはとりあえず削除してから
使用開始してもらいたい。

アプリの中には、連動機能のついたアプリもあ
る。投稿した動画を見たフォロワーから、連動し
た別のアプリでコメントが届く場合もあり、日頃
使い慣れたSNSアプリを通じてダイレクトにコ
メントが届くと、つい安心して返信してしまいが
すい。投稿したアプリ以外からコメントが届くので、
親も管理が難しい状況になる。この状況を防ぐ
ためには、アプリを連動させない設定にすること